

コミュニケーション研修

「自分の価値観を知り、
価値観の異なる他者との接し方を考える」

価値交流

1. まず、個人で作業します。
演習シート「価値交流学习」に、個人的に一番大切なもの（最も優先されるもの）から順に番号をつけ、その理由を記入してください。
2. 演習シートの表に、自分がつけた順番を記入してください。
3. グループになって、各メンバーの順番を発表し合い、表に記入します。
4. メンバー全員分の順番が記入できたら、順番の理由や、「愛情」「名誉」などの言葉をどのような意味としてとらえたかなどを10分ほどで発表し合い、グループの順番を決めてください。
5. 演習から気づいたことをグループで話し合ってみましょう。

演習シート

	順位	理由
愛情		
金銭		
名誉		
健康		
仕事		
趣味		
夢		

	愛情	金銭	名誉	健康	仕事	趣味	夢
自分の順番							
メンバー1							
メンバー2							
メンバー3							
メンバー4							
集団の順番							

あなたは次のどのパターンに近いですか？

「人それぞれだから、どうでもいい」

→価値観は人それぞれである。しかし、どうでもいいと思ってしまうと、相手を理解することも、関係をつくることも難しくなる。

「同じにならないなら、やっていけない」

→自分と同じになることを強制し合ってしまうと、相手と対決することになる。そして、同じになれない時には、関係そのものを排除してしまう危険性もある。

「どうして、そう考えるのだろう」

→相手の話に耳を傾け、どのような考えを持ち、どのような経験をしてきたのかなどを理解する。「この人は、このような考え方をする人である」という理解に基づいて、新たな関係を形成していくことが可能になる。

この演習では、まず個人的に大切なものに優先順位をつけることにより、自分自身の価値観を改めて振り返る機会とする。

価値観は、何かに直面して判断を求められる場面で見えてくるものであるため、自身の価値観を自覚していないことも多い。

自分自身の価値観や感情および言動について、客観的に理解することを「自己覚知」と言う。介護者が自身の個人的な価値観や感情に左右されていると、介護者としての判断を誤ってしまい、不適切な対応をしてしまうことがある。普段から、「私は〇〇に価値を置きやすい」「〇〇を優先しやすい」、あるいは「私は××に価値を感じない」「××は後回しにしやすい」などと、自身の個人的な価値観を意識して、利用者に対する言動を吟味することが大切である。

教材作成

昭和大学保健医療学部

大谷佳子

お疲れ様でした。